

J 八幡浜 インターナショナルクロスカントリー大会 レースレポート

MIYATA-MERIDA BIKING TEAM 齊藤 亮

大会名：J 八幡浜 インターナショナルクロスカントリー大会 (UCI クラス 3)

期日：2013 年 5 月 19 日 (日)

会場：八幡浜市民スポーツパーク JCF 公認 XC コース

天気・気温：雨・18℃

競技種目：男子エリート 5.7km×6 周回

出場者数：73 名

結果：優勝

.....

J シリーズ 2 戦目の舞台は愛媛県八幡浜。今大会は UCI カテゴリークラス 3 に位置づけられ国内レースにおいて UCI ポイントを獲得できる貴重な大会。4 月中旬から続く連戦もこのレースをもって一区切りとなる。J2 緑山大会、アメリカ・シーオッター、J シリーズ開幕戦朽木、アジア選手権大会 (中国成都)、そして今大会の J シリーズ第 2 戦目の八幡浜大会。蓄積された疲労がないと言えば嘘になるが、今シーズンはうまく疲労と体調をコントロールし、コンディショニングとリカバリーのバランスがよい状態を維持できている。良い意味での“鈍感力”は海外遠征を経験することで得たキャパシティーかもしれない。

連戦続きで遠方でのレースということもあり、今回は車移動ではなく飛行機移動を選択。自宅からレース会場である八幡浜までの距離約 820km を 1 人で車移動はあまりにもリスクが大きい。体調を整えやすいように余裕を持って 2 日前に会場入り。この日はコース試走を 1 周だけにして、固まった身体をローラーでほぐしストレッチをして終了。アジア選からの体調不良もだいぶ回復傾向に向かっているが、内臓疲労から食欲があまりない。身体のケアも大事だが、内臓を休ませることを優先しホテルでゆっくりのんびりと過ごす。たくさん睡眠を取り、レース前日も午前中はゆっくりリラックス。昼過ぎに会場入りしてコース試走開始。完全ドライのコースはスピーディーで非常に走りやすい。レースを想定し、勝負所を確認しながらコースを 3 周して試走を終えた。レース前は身体をしっかりと回復させることに専念し、良いイメージを作ることが最重要となる。

レース当日は朝から雨模様。しかも嵐のような雨風が降り続く。レース 2 時間前に会場入りし準備開始。久しぶりのマッドレースにタイヤ選択に時間を費やしたが、チームスタッフと IRC 担当者との話し合いの結果、マッドタイヤ (雨用タイヤ) をチョイスすることに決めた。他選手のタイヤ選択も気になるころではあったが、周りを気にしないよう入念に準備を進めていく。雨の影響もあり、コースの難易度と周回数 (6 周) からレース規定時間 (1 時間 30 分~45 分) では収まらないことは想像がついた。JCF 公認であるこのコースの特徴は、前半は平坦基調でスピーディーなシングルトラック。一旦、舗装路に出て通称「桜坂」と呼ばれる登り区間へ。その後シングルトラックの下りが続き、下り終わると簡易舗装の登り区間に入っていく。この登りは約 3 分以上続き、本コースの勝負所といえる。登り終わると最大の難関である「ゴ

ジラの背中」と呼ばれる下り区間で、木の根っこが縦横無尽に点在するテクニカルセクション。進入スピードと正確にバイクをコントロールするスキルがないとミスをして大きなタイムロスに繋がってしまう。そこからダブルトラックのアップダウンを繰り返し、バンクセクションを抜けてメイン会場へと戻る。パワーとテクニックが必要とされる日本屈指のバランスの取れたコースと言えるだろう。

男子エリートのスタートは13時30分。UCIポイント順にスタートコールされ、最初のコールでスタート最前列中央に並ぶ。号砲一発、落ち着いてスタート。身体の反応も良く、クリーンキヤッチもうまくいった。会場を抜け最初のシングルトラックを3番手で進入。今回も元気ある若手選手に先行されてしまうカタチでのスタートとなったが、彼らは非常にアグレッシブな走り方で積極性が光る選手である。タイトなコーナーが連続するシングルトラックは正確さと冷静さが必要とされる。ハイスピードでレースを進め、1周目中盤から先頭に出てレースを展開。予想通り **SPECIALIZED** の小野寺選手が自分をぴったりとマーク。と思いきや彼は3分程続く簡易舗装の登り区間でどんどんスピードを上げていく。ドライタイヤで勝負に出てきた彼は軽快に加速していき、マッドタイヤの自分は路面の重さを感じながらゴリゴリ音を立てて登っていく。タイヤの違いでここまで差が出るのか・・・ある程度の予想はしていたがこの区間だけで20秒以上の差を付けられてしまうと弱気な気持ちも出てしまう・・・。

しかし下りパートや滑りやすい路面はマッドタイヤの方がアドバンテージとなり攻めた走りが出る。4周目までは登りで離され、下りで差を縮めるような展開を繰り返して20~30秒程の差で周回を重ねた。降りしきる雨も次第に上がりコンディションは悪化していく状態。5周目あたりから次第に相手のミスする回数が増えていく。そこを見逃すはずもなく下りで猛アタック。しっかりと集中力を保ち、自分を追いこむ。泥レースでは焦ってはいけぬ。焦りがミスを招き、ミスが機材トラブルや痙攣へとつながる。経験を重ねる度に冷静に考えられるようになってきた。ここ数年、八幡浜のレースではメカトラブル、パンク、オーバーペース、痙攣・・・苦い思い出が脳裏に焼き付いている。これを払拭する意味でも絶対に優勝するんだという強い気持ちを持って最後までプッシュし続けた。

ラスト周回、全身泥まみれの身体にはエネルギーは残っておらず、フラフラになりながらも後続を振り切って優勝することが出来た。精も根も尽き果て倒れ込むようにゴール・・・。すべてを出し切った。色々な感情と、煮え切らない思いも抱えつつ、高いモチベーションを保てるのも自分を取り巻く周りの皆さんのお陰。今の自分には迷いはなく、やるべき事がしっかりと見えている。その陰にはチームスタッフ、多くのスポンサー様の支え、多くの関係者の支えがあって成り立っている。アジア選での失敗から意地で勝ち取った今回の優勝。今の自分にはとても意味がある。やっぱり表彰台からの眺めは最高に気持ちがいい。

過信することなく冷静に自分を見つめ直し、もっとテクニックやスキルを上げていきたい。やれる事、やらなければいけない事は明確に見えている。それを実行していけばもっと強い自分になれると思う。次戦のレースも積極的な走り方で攻めていきたい。たくさんの応援、サポート本当にありがとうございました。

【レース結果】

1. 齊藤 亮 長野県/MIYATA-MERIDA BIKIG TEAM
2. 小野寺健 京都府/TEAM SPECIALIZED
3. 門田基志 愛媛県/TEAM GIANT
4. 松本 駿 長野県/TEAM SCOTT
5. 島田真琴 大阪府/シマノドリンキング
6. 鈴木智之 神奈川県/ckirin.com

【使用機材】

バイク：MERIDA / BIG.NINE CARBON TEAM-D (2014 モデル)

フロントフォーク：DT-SWISS / XMM100-29 TS REMOTE TAPER

クランクセット：SRAM / XX1

サドル：SELLE ITALIA SLR XC

タイヤ：IRC

シューズ：NORTHWAVE / エクストリームテック MTB S.B.S

ヘルメット：KOOFU/WG-1

サングラス：adidas eye wear / evil eye halfrim pro / クリスタル S グラデーション

ケミカル：**HOLMENKOL**

チェーン：ルーベエクストリーム

スプロケット、チェーン：ダートプロテクター

フレーム：スポーツポリッシュ、アクアスピード、ダートプロテクター

ウェア、シューズ：ハイテクプルーフ、テキスタイルウォッシュ

サングラス：ノーフォグ

齊藤選手のコメント

「レースは雨で難しいコンディションでした。皆、タイヤの選択がレースの分かれ目とっていましたが、大切なのは悪条件でトラブルなくレースを進められるかどうかです。タイヤももちろん大切ですが、オイル切れからくる変速トラブルの方にむしろ気を遣い、雨対策をバッチリ行いました。このコンディションでは泥まみれにはなりましたが、レース終了後もしっかり潤滑していました。ルーベエクストリームの底力も、勝因の一つです！」

メーター：POLAR / RS800CX BIKE

エネルギージェル：shotz ENERGY GEL

ドリンク：Electrolyte shotz

レースウェア：WAVE ONE

レースソックス：deuter

レースグローブ：KABUTO / PRG-3

アンダーウェア：CRAFT

インソール：SUPER feet / Black

アパレルウェア：Columbia

テーピング：New-HALE

ネックレス：erg



©Akihiro.NAKAO



©Akihiro.NAKAO